

部活動地域移行 (教育部関係)

- 問 地域クラブのコミュニティバス運行委託料として、500万円が計上されているが、その内容は。
- 答 対象人数を200名と想定し、200名×往復運賃500円×50日で計上しています。
- 問 補助金として600万円が計上されているが、その支給方法は。
- 答 認定クラブからの請求額の1/2 (上限20万円) の補助を考えています。関係書類を精査した上で、年間の活動に応じて支払うこととなります。



給食費無償化

- 問 中学校給食費無償化について、国の臨時交付金が終了した後の継続性は。
- 答 予算的に大きな問題になるため、国の支援が切れた場合の対応については、今後関係部局と精査していく必要があります。



男女共同参画 (市民生活部関係)

- 問 男女共同参画プラン策定のためのアンケートは誰に、どのように行うのか。
- 答 アンケートは約2,000人を対象に行い、紙及びQRコードも併用する予定です。アンケートの設問などは、男女共同参画推進委員の方とも検討していきます。また今回、企業アンケートも実施します。

災害時備蓄品 (危機管理部関係)

- 問 備蓄品を保管している場所は。また、浸水想定地域での保管についての対応は。
- 答 現在、本庁舎及び各事務所で保管していますが、小学校にも保管場所を分散する予定で進めています。浸水が想定される場所の保管については、2階以上の高所への保管を想定しています。

子どもの遊び場 (健康福祉部関係)

- 問 津名子育て学習センターにおいては、平日に加え土日開設し、就学前児童の遊びの広場を開設するとあるが、なぜ津名地区なのか。
- 答 人員配置という課題があり、利用人数は東浦も多いのですが、場所の広さの問題もあります。
- 問 予算増額の理由は。
- 答 地域の方との交流も目的とし、子育て経験がある方から若い世代の母親も学ぶことが多いことから、シルバー人材センターに委託する予算設定です。



達者で長生き運動支援

- 問 津名地区や北淡地区では温泉施設がなく、申請しないという人がかなりいる。温泉プール券に、あわ神・あわ姫バスの無料券をセットにすれば利用促進につながるのではないかと。
- 答 提案は非常に魅力的ですが、ハードルが高いと考えます。実施できていない温泉施設には、今後事業者と協議を進めていきたいと考えています。

プレミアム商品券 (産業振興部関係)

- 問 目的と発行時期は。
- 答 物価高騰の影響を受ける市民の生活支援と市内消費の拡大が目的です。9月中旬頃からの利用開始を予定しています。
- 問 物価高騰対策としては、対応が遅いのでは。
- 答 準備期間と、国の物価高騰対策による本市一人に1万円分の商品券を配布する事業及び県が発行するはばタンPay+ (プラス) との重複を考慮しています。

有害鳥獣対策

- 問 事業として、9,000万円以上が計上されている。イノシシの捕獲頭数が令和6年1,718頭から、令和7年見込みで1,495頭に減少しているが、その要因は。
- 答 令和7年度で檻の設置管理料を無くしましたが、その変更と今回の結果が直結しているかは不明です。
- 問 捕獲のためのICT機器が、北淡や岩屋猟友会に配付され、中淡猟友会への配付が無い理由は。
- 答 要望が無かったからです。



夏まつりと敬老会の廃止 (総括質疑)

- 問 夏まつり、敬老会の廃止に対する市長の考えは。
- 答 夏まつりは、駐車場の確保や資材・警備費の高騰などの課題が多く、物質的に無理なところもあり、一旦現状での実施は困難であると判断しました。敬老会については、参加者の推移も見ながらですが、廃止としました。その分、他の支援に回していこうと考えています。
- 問 自分ごと化会議では「どのように継続するか」という提案が多かったが、それらの意見は反映されないのか。
- 答 自分ごと化会議では、地域の祭りも大切にして欲しいという意見もいただきました。まちづくり補助金を活用していただこうと考えています。
- 問 規模の見直しや協賛などによる継続の可能性は、どの程度検討されたのか。
- 答 夏まつりは現状の場所での実施が不可能ですので、これからの議論になってくると考えています。



デザインビルド方式での入札

- 問 照明設備のLED化、小学校の遊具更新のデザインビルド方式の委託先は、島外業者になるのか。地元業者を使えば、地域経済の循環にも寄与し、仕事のノウハウも残る。再検討が必要では。
- 答 デザインビルド方式については、費用対効果と時間の短縮など大きなメリットがあります。市内事業者を排除するというものではありません。今後も数ある手法の1つとして、有効的に活用していきたいと考えています。

議案26号 令和8年度一般会計予算 討論

反対 村田 沙織

令和8年度は少子化対策の拡充に対する予算が多く、評価できる。しかし、「夏まつり」「敬老会」の廃止については、単にイベントの廃止の是非ではなく、市政の意思決定の在り方そのものに関わる問題である。市長の掲げる「共創」の理念に対する市民の期待に応え、市民の声を踏まえた丁寧な検討や納得感のある判断を求める。

賛成 西村 秀一

未来を担う人づくり、健康長寿で生き生きと暮らせるまちづくり等、ふるさと寄付金を活用し、積極的な事業予算と評価する。がん患者サポート拡充、岩屋ポーターミナル駐車場誘導員の配置等、小さな声を反映した事業予算がみられる。委員会での意見・提案を真摯に検討し、市民に寄り添う予算執行となることを期待し、賛成とする。

反対 鎌塚 聡

敬老会の開催自体が廃止となっている。また、これまで77歳など節目の年の方への商品券発送も対象を変え、90歳と夫婦で190歳の方へと限定し、敬老の精神が後退した一方的な廃止、削減となっている。ふるさと基金を使った新規事業はあるが、ふるさと同窓会事業は廃止される。来年の確定申告相談の土曜日実施も廃止のまま。